



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オヘ期日	オヘスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/22 (月)	+ 600	▲ 2,900	▲ 2,300	国庫短期証券発行・償還 (1Y/3M)	国債補完供給 + 9,000 CP等買入 ▲ 300	社債買入 + 800	
8/23 (火)	+ 1,000	▲ 3,000	▲ 2,000				
8/24 (水)	トン	▲ 8,000	▲ 8,000	流動性供給			
8/25 (木)	トン	▲ 8,000	▲ 8,000	国庫短期証券償還 (6M)			米：GDP (2Q) 欧：ECB議事要旨 (7月開催分)
8/26 (金)	▲ 1,000	▲ 8,000	▲ 9,000	流動性供給			日：東京CPI (8月) 米：パウエルFRB議長のスピーチ

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、年金定時払いや国庫短期証券の償還により前営業日比+7兆3,000億円の538兆800億円から始まった。その後、17日には5年債の発行により535兆7,300億円まで減少し、19日は536兆6,300億円での越週となった。無担保コールON物加重平均金利については、積み期最終日の15日に着地に向けた調達ニーズの強まりから、前営業日比+0.001%の△0.007%まで上昇した。8月積み期初日となる16日は調達に慎重となる先も多く△0.018%まで低下した。その後は大手行を中心に調達ニーズが強まり、17日には△0.014%、18日には△0.010%まで上昇し、週末三日積みとなる19日には△0.009%で越週した。ターム物は1W~2W物を中心に、主に△0.040%~△0.010%の水準で出会いが見られた。来週以降の主な予定は、国内で26日に東京CPIの公表などがあり、海外では25日にはECB議事要旨 (7月開催分) の公表や米GDP (2Q) の公表、26日にはパウエルFRB議長のスピーチなどが予定されている。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.040 ~ 0.001
1M	△0.040 ~ 0.020
2M	△0.020 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GC取引は積み期初日となる16日受け渡しでは△0.085%近辺で始まり、週を通して同水準で推移した。短国3M、1Yの発行日が重なった22日受け渡しの取引においても水準の変化は見られなかった。SC取引は2年428~439回債、5年148~153回債、10年350~367回債、20年171~181回債、30年65~75回債、40年9~15回債などに引合いが多く見られ

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.005

<CP>

今週の入札発行総額は約4,900億円で、週間償還額 (約4,500億円) を上回った。発行市場は、夏季休暇の影響もあり前半は落ち着いた相場展開であったものの、鉄鋼や石油等一部の業態で大型の発行が実施された。発行残高は先週末の28兆3,878億円から8月18日時点で28兆6,857億円に増加した。発行レートは0%から小幅なプラス圏での出会いが中心であった。

来週の週間償還額は、約9,100億円となっている。発行市場は、事業法人による夏季休暇明けの発行再開と5・10日発行が重なり、相応の発行が予想される。企業の資金ニーズは底堅く、過去最高残高 (28兆7,185億円) の更新も視野に入る。発行レートは横ばい圏内での出会いを予想する。26日に、CP等買入れオヘが4,000億円程度オファーされる予定。

<TDB>

8月18日の1Y1102回債の入札は、最高落札利回り△0.1311% (前回債△0.1308%)、平均落札利回り△0.1311% (前回債△0.1308%)、8月19日の3M1103回債の入札は、最高落札利回り△0.1162% (前回債△0.1042%)、平均落札利回り△0.1295% (前回債△0.1126%) となった。来週は26日に3Mの入札がある。